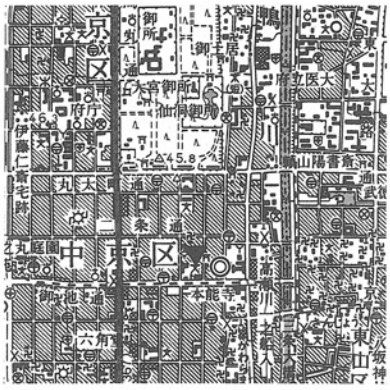
京都・平安京（へいあんきょう）跡左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡

1 所在地　京都市中京区御池通富小路西入る東八幡町
2 調査期間　二〇〇三年（平15）八月～二〇〇四年九月
3 発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所
4 調査担当者　上村和直・小檜山一良・大立目一・尾藤徳行
5 遺跡の種類　集落跡・都城跡
6 遺跡の年代　縄文時代～江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、鴨川が形成した北から南に緩やかに傾斜する微高地上に立地し、縄文時代～飛鳥時代の集落遺跡である烏丸御池遺跡に含まれる。平安京の条坊では左京三条四坊十町にあたり、調査の結果、当地が平安京造営後まもない頃から、利用されたことがわかった。鎌倉時代に属する遺構及び遺物は数多く検出されており、当地がこの時期に活発に利用されたことがうかがえる。



（京都東北部・京都東南部）

京都の町が上京と下京に二極分化する戦国時代の当地は、下京の町組の北東縁辺部にあたり、中心部からはずれた地点に位置しており、一六世紀の遺構分布密度が極端に低下する。天正以降、町割りが短冊形に造り替えられ、東を富小路通、西を柳馬場通、南を御池通、北を押小路通に画された街区となり、江戸時代前期になると、遺構・遺物ともに急増していく。

江戸時代前期の遺構として、柳馬場通や御池通に面して立ち並ぶ石垣や塀により区画された町屋を検出した。その中には多数の井戸や石室、真鍮製造工房や廃棄土坑などが含まれている。江戸時代中期に入ると真鍮工房の操業は停止し、廃棄土坑も埋め立てられ、町屋の区画に取り込まれていくことがわかった。

この四つの通りで区画された街区のほぼ中央に存在している大型の廃棄土坑三二八は、南北一〇m以上東西二七m深さ約一mで、底部には凹凸がみられる。南側の真鍮工房からの廃棄物が最も多いが、周囲からも各種の廃棄が行なわれたと考えられる。廃棄されたものには、真鍮工房関係では坩堝・取瓶・炉壁・灰・スラグなどがある。他には、土器類や輸入品を含む陶磁器類がある。また、木製品・漆容器・棹秤・骨製品などの各種工芸品製造に関連するものも出土している。さらに、この中に軟質施釉陶器と素焼き陶片など、当地での陶器製造を示すと考えられる遺物も含まれる。

出土した木製品は多種多彩で、箸・しゃもじ・漆器椀・盤・折敷・曲物・釣瓶・各種の荷札・題籤・櫛・独楽・羽子板・小舟・人形頭部・下駄・ヘラ・刷毛の柄などがある。また、茶筅・団扇の骨などの竹製品も含まれている。共伴する土師器皿は、京都Ⅺ期中～新段階（一七世紀中葉）にあたる。

木簡は、廃棄土坑三二八から六点、工房下層の土坑二三五四から一点、土坑八七から一点、計八点が出土した。

8　木簡の釈文・内容

土坑三二八

(1)　「〈こ本れ　初谷
　　新右衛門」　(111)×22×9　033

(2)　・「〈　六月十一日
　　鮨壱桶　疋田村
　　安右衛門」
　・「〈□□□□□
　　□□や　二郎兵衛殿」　120×29×5　033

(3)　・「□□左衛門
　　□〔宗カ〕□
　　九郎右衛門七ノ割一分」
　・「九月十八日
　　小〔屋カ〕□□　□〔徳カ〕　□〔蔵カ〕」　142×30×5　051

(4)　「〈御ちの人さま
　　御きくさま×」　(90)×24×2　039

(5)　・「□〔合カ〕□□□。徳久□□」
　・「　。やや　」　162×32×6　065

(6)　「大坂わんや」　231×50×4　065

土坑二三五四

(7)　「〈□〔村カ〕林太」　174×21×4　032

土坑八七

(8)　「□□」　124×35×8　021

(1)は上端と両側面はケズリ調整。下方に向かって僅かに幅を広げ

ている。下端は僅かに欠損する。「初谷」は「助吉」の可能性もある。

(2)は上端と両側面はケズリ調整。

(3)は上端と両側面はケズリ調整。表面は丸太材の外側を利用しているため、中央部が厚く両端部にかけて薄くなる。裏面は平坦に加工されている。

(4)は上端と両側面はケズリ調整。下部は欠損する。下方に向かって僅かに幅を広げている。

(5)は上下両端を丸くする。表面上端部を薄く削る。両側面はケズリ調整。表面中央部の一文字の下半部が穿孔により失われる。

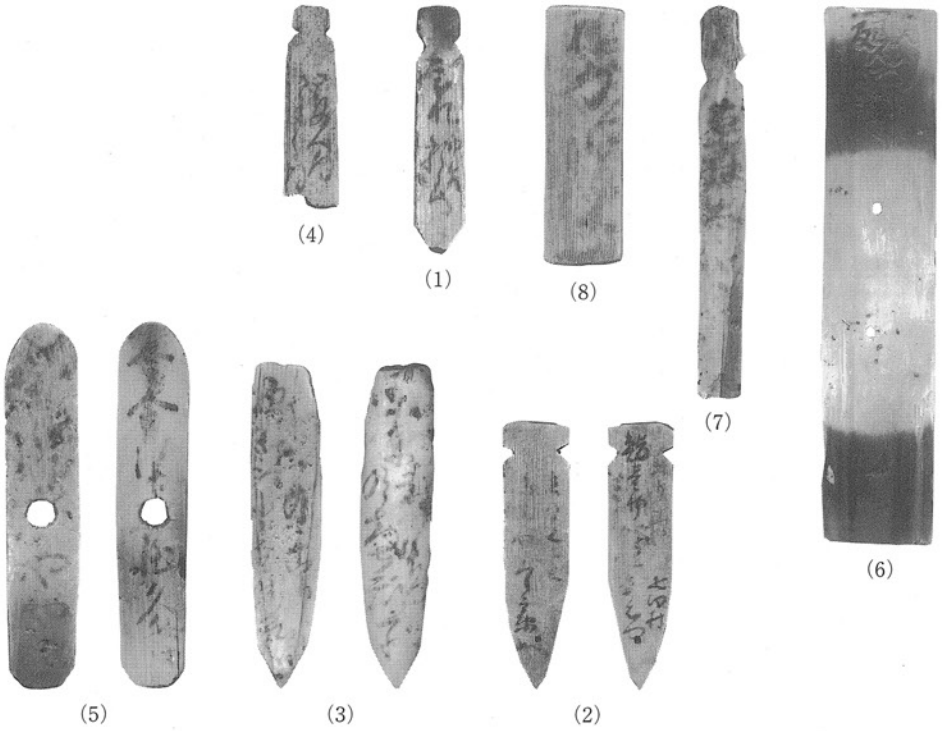
(6)は用途不明の木製品とみられる。上下両端と左右両辺はケズリ調整。上部に焼印が捺されている。上部六cmと下部五cmほどの範囲が焦げる。上端から九cmと一四cmの位置に直径五mmの小穴を穿つ。

(7)は上下端と両側面はケズリ調整。上端はやや尖る。

(8)は短冊型。上下端と両側面はケズリ調整。

なお、木簡の釈読にあたっては、京都大学の西山良平氏、京都橘大学の有坂道子氏、滋賀県立大学の東幸代氏のご教示を得た。

9 関係文献

上村和直・小檜山一良『平安京左京三条四坊十町跡』(京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報二〇〇四―一〇、㈶京都市埋蔵文化財研究所、二〇〇四年)

(小檜山一良)